

平成 29 年 6 月 2 日

プレスリリース

報道各位

大阪堂島商品取引所

コメ試験上場検証特別委員会(平成 29 年 5 月 26 日)概要

1 日時：平成 29 年 5 月 26 日（金）11 時 30 分～14 時 15 分

2 場所：食糧会館 A 会議室

3 議題

- ・関係者ヒアリング
- ・コメ先物取引の試験上場の状況 他

4 概要

○ 関係者からのヒアリング

① 集荷販売業者 E

- ・主に現物の販売目的で先物取引を活用しているが、不足時の調達目的にも活用することはある。集荷時には保管量を調整するため、先物市場で先売りしている。
- ・これまで半年先の価格は“噂話”でしかなく、不安感があったが、先物市場ができて、半年先の価格が常に提示されるようになってからは、指標価格として参考にしている。
- ・先物取引は、集荷量を増やす際の保険となる。

② 卸売業者 F

- ・先物取引を活用したリスクヘッジ機能とはどういうものかを勉強するために参加している。保管料や先物の手数料等のコストを考慮しながら、リスクヘッジになるかどうかを判断するには、取引参加するしかない。
- ・コメの価格が先高なのか、先安なのかといった感覚は、先物取引に参加しないと養えない。
- ・先物市場の新穀価格は、市場関係者がどのように見ているかを知る手掛かりになる。先物市場は買い手と売り手の意思がマッチして価格が形成されており、先物価格は価格指標の一つとして認知されてきている。

○ 試験上場の延長・再延長前後の取引量で比較した場合、実績として増加していることについて、当業者の視点からは評価できるとの意見



- 今後、生産者にとっても先物市場の存在が重要性を増し、販売先の選択肢としても生産者の参加増が期待できるとの意見
- 価格が常に提示されている点で先物市場は生産者にとって安心材料になるとの意見
- 今後、農地の集約が進む中で販売先をどう開拓していくかが課題になる。そうしたタイミングで先物市場をなくす必要はないとの意見
- 生産者も流通業者も大型化を促されており、大型化するほどにリスク分散が求められ先物市場の必要性は高まる。大型化した場合、生産者と流通業者のパイプが強固となり、自社で販売が難しい銘柄も含め引き取らざるを得なくなったとき、(得意なものは自社で売れるが) 不得意なもの売る受け皿として、先物市場が必要になるとの意見
- 「安定取引の拡大」というのは、仮にコメの価格が不安定化しても、個々の取引の価格は安定化させるという意ではないか。然るに、コメ先物市場は個々の事業者が安定した価格で契約を結ぶための“装置”とも言えるとの意見
- 商品先物取引全体が厳しい環境におかれていることや、コメ先物取引において1日や1ヶ月といった短期でみた値動きが少ないことを勘案すると、短期的な取引を行うような投資家の増加は難しいとの意見

5 その他

今回は6月12日(月)に実施する予定

以上